

# 2006年 中堅・中小企業におけるサーバOSの実態調査報告

ノーク・リサーチ(本社〒124-0001 東京都葛飾区小菅 4-12-5:代表伊嶋謙二 03-5629-2163、URL:  
http://www.norkresearch.co.jp)では中堅・中小企業におけるサーバOSの実態調査を実施し、その  
分析結果を発表した。

## <2006年 中堅・中小企業におけるサーバOSの実態調査のポイント>

中堅・中小企業で利用されているサーバOSの8割以上はWindows

- 06年のWindows(NT、2000、2003)の利用シェアは83.9%、Linuxは5.5% -
- Linuxは3ヵ年推移でもほとんど変化がなく停滞気味、もしくは漸減傾向にある -

中堅・中小企業ではLinuxは苦戦、その理由は?

Linuxを「利用しない理由」の約6割が「理解する技術者がいない」ため

サーバ管理で重要と判断される4つの要素(エンジニア、サービス/サポート、アプリケーション、セキュリティ)において、Windowsが中堅・中小企業では評価されている

Linuxを導入する企業は「コスト削減」が最大の目的

Linuxは単機能系サーバOSとして、Windowsと一部共存する可能性あり

**調査対象:** 1.全国4000社の売上5億円以上500億円未満のサーバ導入企業  
2.上記調査で回答した企業の中からランダムに8社を抽出して直接面接調査

**調査方法:** 「定量調査」郵送アンケート 有効回収票:931社  
「定性調査」直接面接調査:8社

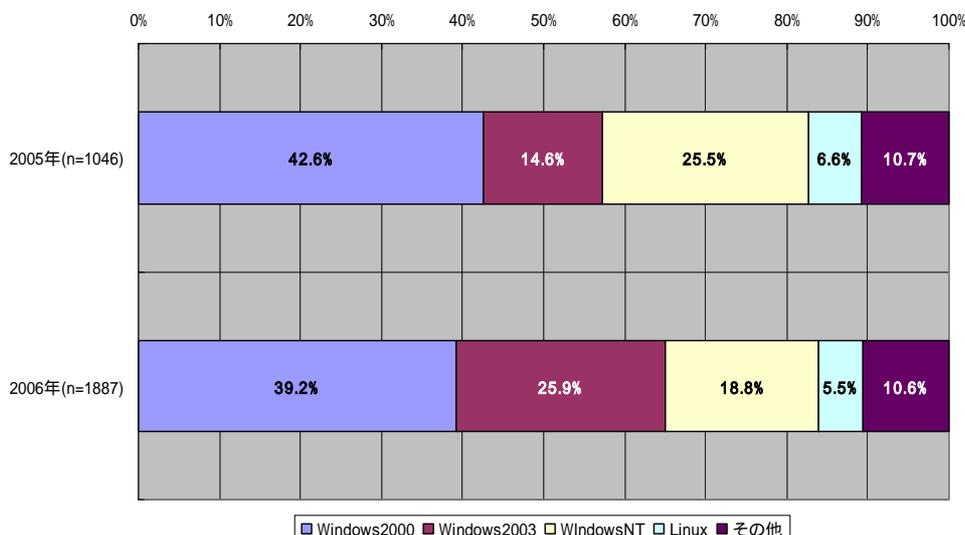
**調査分析期間:** 2006年2月~4月

## [定量調査分析結果]

### - 中堅・中小企業で利用されているサーバOSの8割以上はWindows -

中堅・中小企業で利用されているサーバOSは「Windows2000」が39.2%、ついで「Windows2003」が25.9%そして「WindowsNT」が18.8%と続く。WindowsはNT、2000、2003あわせて8割を超えて圧倒的多数を占めている。一方「Linux」は、5.5%で、昨年の6.6%よりも下回っている。しかもLinuxはここ3ヵ年の推移でもほとんど変化がない。むしろLinuxは停滞気味もしくは漸減傾向さえ見える。

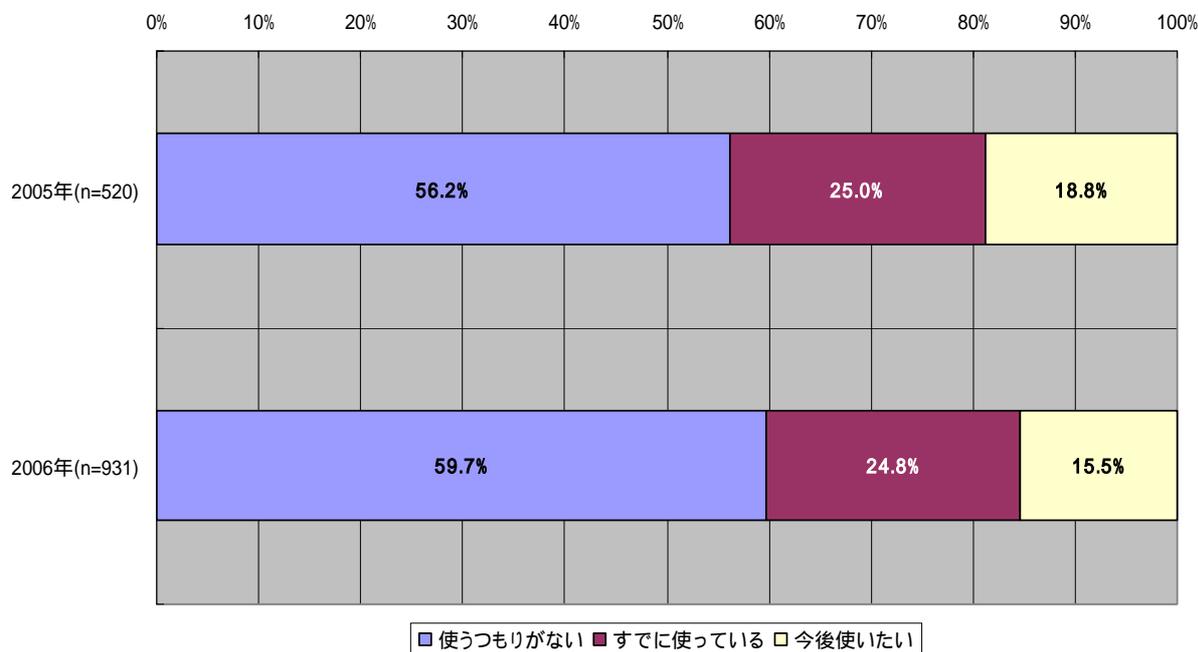
サーバOSの種類



[Linux の利用実態]

- 約 6 割は使うつもりがない -

Linuxについての考え

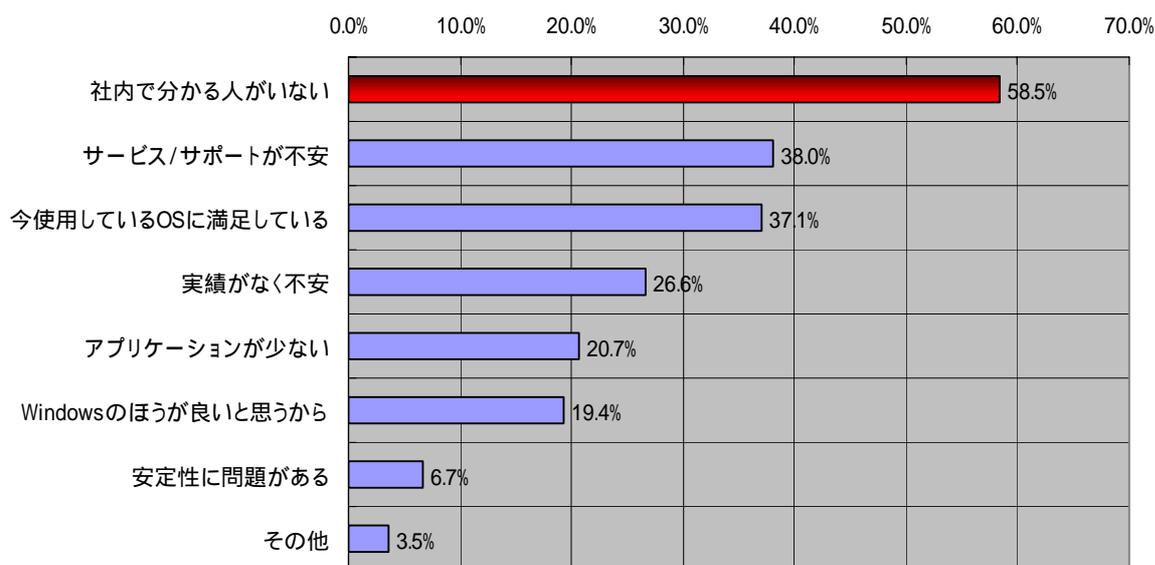


1 台でも使っているという意味での Linux の利用率は 24.8%となっているが、前年より利用率は下がっている。むしろ Linux の今後の導入予定では、「使うつもりがない」が 59.7%と過半数を超えている。この「Linux を使うつもりがない」値は昨年の 56.2%と比べてもその比率が高まっている。

- Linux を理解する技術者が不足している -

Linuxを使うつもりがない理由

N=548



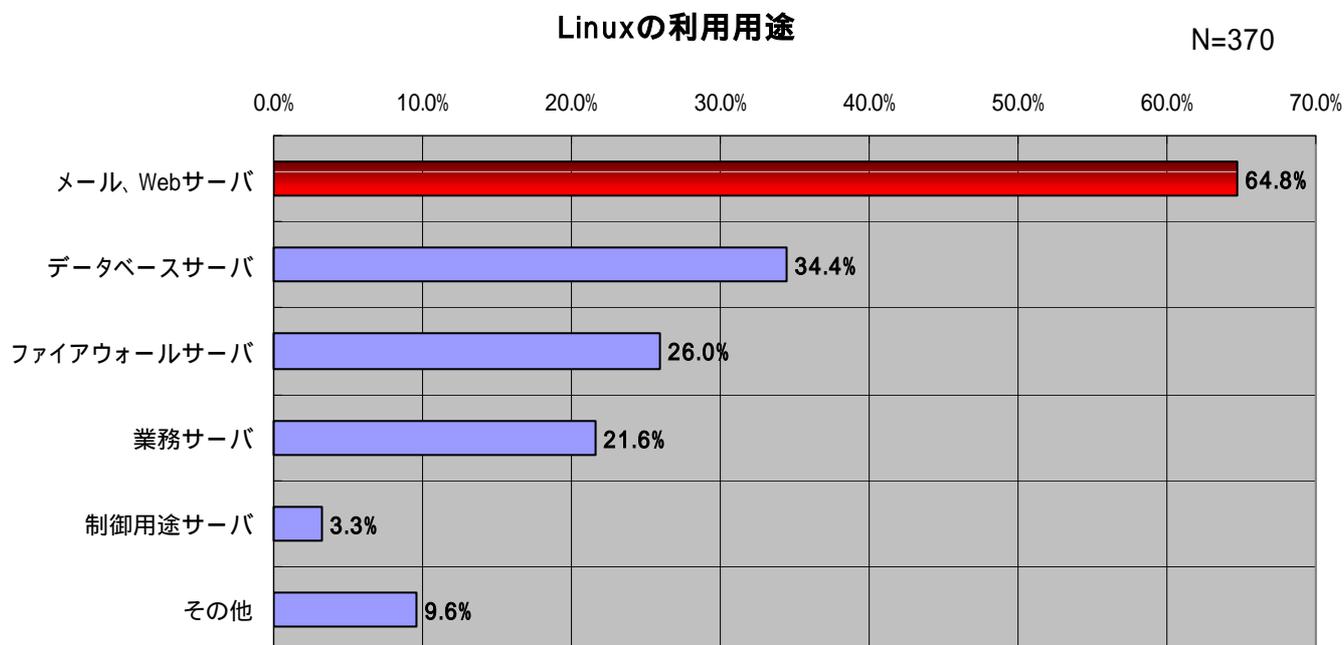
Linux をなぜ「使うつもりがない」がないのか？その理由として最も多かったのが、「Linux を理解する技術者がいない」ことだ。実に 58.5%と約 6 割を占めた。ついで「サービス/サポートが不安」38.0%、「今使用している OS に満足している」で 37.1%というのが挙がった。

最も注目すべきはやはり「Linux を理解する技術者がいない」ことだ。今まで Windows を利用していたユーザーが Linux にリプレースするのは簡単ではない。Linux を利用するためには

- 社内のスタッフに専用の教育プログラムを受けさせて Linux スキルを持たせる
- 社外から経験者を募り対応する

中堅・中小企業にとっては時間もコストも余分にかかる。多くの中堅・中小企業はそんな余裕がないのが実情だろう。

- Linux はエッジ系サーバ OS として Windows と一部共存する -



Linux のアプリケーション別の利用率は「メール、Webサーバ」で 64.8%、次いで「データベースサーバ」34.4%、「ファイアウォールサーバ」26.0%、「基幹業務サーバ」21.6%と続く。Web系、情報系なら容量の軽い Linux を用いることのメリットが生じるが、基幹系への導入は、万一の場合のことを考えた場合、サポートに不安を持つ Linux は控え気味となっている。

現実的には Linux が Windows からリプレースして主流になるというよりも、メール、Webサーバといったエッジ系サーバ OS として Windows と一部分を共存していくとみるのが妥当だろう。

## [定性調査分析]

定量調査の結果、「中堅・中小企業におけるサーバOSの利用実態」は以下の2つのポイントに集約できる。

**中堅・中小企業におけるサーバOSはWindowsが8割以上**

**Linuxはメール、Web系での利用が中心**

これを受けて、企業内サーバOSで「定量調査で明らかになった2点」を検証する目的で、WindowsとLinuxに着目しその導入経緯、導入の背景を把握する為、直接面接によるヒアリング調査を行った。尚、ヒアリング対象の選定にあたってはバランスの良いWindows及びLinuxの双方を導入・利用中か、もしくは過去にLinuxを導入・利用経験しWindowsに戻ったユーザをピックアップした。

そのため、公平な意見を聴取するために

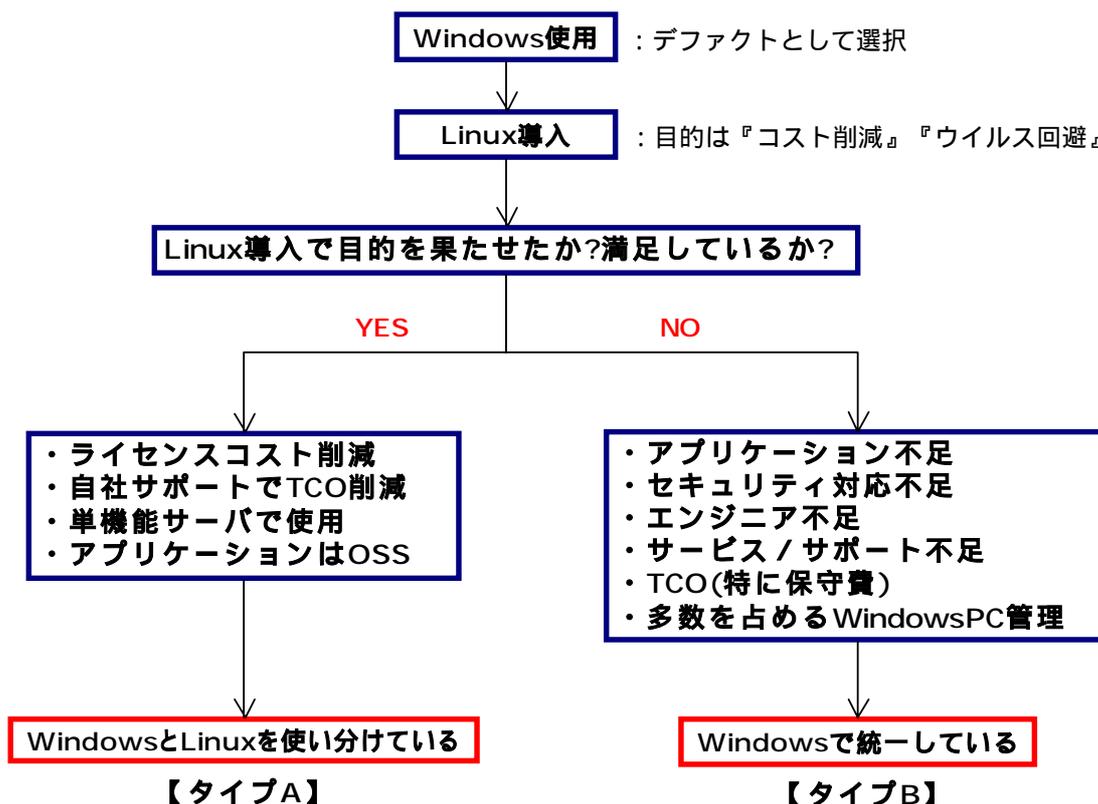
【タイプA】サーバOSは「WindowsとLinuxを使い分けている」

【タイプB】サーバOSは「Windowsで統一している」

の2タイプのユーザを対象にサンプリングを行った。

サーバOSをLinuxで統一しているユーザが少なかったためサンプリングができず、2タイプとなった。

そこで対象ユーザのサーバOS導入経緯、背景を追うことで、定量調査の結果を検証することになったキーワードが浮かび上がってきた。



### - サーバOS選定における5つのポイント -

上記のフローチャートから中堅・中小企業におけるサーバOS選定・導入に関わる要素として5つが重要であることが明らかになった。その5つの要素とは以下のとおりである。

エンジニア  
サービス/サポート  
コスト(TCO)  
アプリケーション  
セキュリティ

#### - 5つの要素についてのユーザの実態 -

Linuxを現在も利用しているユーザは自社でLinuxをサポートし、OSSを単機能サーバとして利用することで、TCO削減に成功している。また、途中でLinuxのエンジニアを採用したユーザ、Linuxのエンジニアを元々抱えているユーザ、つまり自社にLinuxのエンジニアを抱えているユーザがLinuxの利点を引き出せている。圧倒的なアプリケーション不足に対しては、基幹系はWindows、OSSが最低限揃っているメールやWeb系の単機能のサーバとして利用している。

一方で、Windowsで統一しているユーザは、セキュリティ対応への不満やエンジニア不足、アプリケーション不足など多様な理由でLinuxから離れている。Linuxは管理に不安が残り、Linux管理の技術を身に付けようにもそんな時間的余裕はないのが実情だ。Windowsの管理ならば経験的にも慣れており、基幹系やセキュリティアプリケーションの選択肢も幅広く、サービス/サポートも評価されている。また、Windowsはイニシャルコストは高いが、サポートフィーなどランニングコストが抑えられることが指摘された。

#### - 定性調査結論 -

「サービス/サポート」「アプリケーション」「セキュリティ対応」「エンジニア」といったサーバ管理で重要と判断される要素において、Windowsが歴史的に培ってきた環境が中堅・中小企業では強く影響されている。  
メールやWebといったフロントエンドでフリーのアプリケーションをのせた単機能サーバとしてLinuxを使うことによる「コスト削減」がLinux導入企業の動機である。



中堅・中小企業におけるサーバOSの今後は...

Windowsが大勢を占める現状にLinuxが影響を及ぼす可能性はあまり高くない。しかしコスト削減を目的にフリーのアプリケーションを利用するフロントエッジ系の単機能サーバ用途でWindowsとの一部共存環境の可能性が考えられる。

当調査データに関するお問い合わせ



ノーク・リサーチ

担当：河田 裕司

e-mail: [pressr@norkresearch.co.jp](mailto:pressr@norkresearch.co.jp)

〒124-0001 東京都葛飾区小菅 4-12-5

電話 5629-2163 FAX 5629-2164

URL: <http://www.norkresearch.co.jp>